

知事との県民対話集会（岡谷市）概要

- ・開催日時 令和5年1月28日（土） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 テクノプラザおかや 大研修室
- ・参加者 県民17名、今井岡谷市長、阿部知事、宮原諏訪地域振興局長
- ・テーマ 産学官連携による“ものづくり産業”のさらなる発展

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・国の技術力向上は安全保障にも大きく寄与する。地域の技術力の底上げが今後もより一層必要であり、工業技術総合センターの人材確保とさらなる予算付けをお願いしたい。
- ・今後の産業の変化を考えると、DXやAI技術対応への支援強化をお願いしたい。

【知事】

- ・DXの支援について、工業技術総合センターの体制は強化していきたい。
- ・ITバレー構想を通して、IT企業やIT人材をできるだけ集められるような環境づくりをしている。
- ・DXは業種によってアプローチの仕方が異なるため、情報を整理して企業のDXをサポートできる仕組み・環境をつくりたい。

【参加者】

- ・岡谷市は多くの製造業が集積していて操業するのに有利な環境。今後もこの地域と発展していきたいので、県にもバックアップをお願いしたい。

【知事】

- ・ものづくり人材の育成には引き続き力を入れていきたい。
- ・EVシフトへの対応などサプライチェーンに長野県の企業が組み込まれるよう、サポートができるようにしたい。
- ・企業と対話しながら県内企業の発展について考えていきたい。

【参加者】

- ・女性が働きやすい工場はどうつくればいいのかを考えたところ、育児がネックだった。
- ・出産・育児で退職した社員にも、育児が一段落したら再就職を勧めている。
- ・産休・育休制度も整えており、祖父母等育児で頼れる先がなければ、月3日は休暇を与えている。
- ・義務教育で学校行事が入ったら勤務を免除し、給与の減額をしない措置をしている。

【参加者】

- ・熟練技能を持つ男性中心の会社だが、産休・育休は平成24年以来100%の取得実績があり、男性の育休制度を活用する従業員もでてきた。
- ・小学校低学年までの子がいる従業員は、自宅勤務等のフレキシブルな勤務が可能など、女性のみならず男性も働きやすい環境づくりに取り組んでいる。

【知事】

- ・先駆的な話が聞けた。少子化対策、結婚支援・子育て支援は県として重要な課題と認識している。

【参加者】

- ・既婚・未婚や子どもの有無に関係なく、女性の役職登用や採用に対して、大胆な支援制度をつくってほしい。

【知事】

- ・女性を雇用しただけでお金を出すと膨大な金額が必要となるので難しいが、大胆なことを考えるのは重要。
- ・男性の育休取得などを一層普及させていかないと、いつまでも女性の問題になってしまう。社会の仕組みも同様で、今の社会を差配している年代の意識が変わらないといけないと思っている。

【参加者】

・工場の現場サイドでは休まれると困るというのが本音。結婚等あればその後（出産等）を予想した人事が慣例になっている。現場の社員も休暇は受け入れている。一方で、人材の余裕が必要になるため、行政からの補助等があると動きやすい。

【知事】

・補助については改めて考えたい。

【参加者】

・産業が集積し高い技術を持つ一方、営業が手薄。地方の技術を中央へという気持ちで取り組んでいる。
・企業の集積地ではネットワークが大事。リーダーシップを発揮する人材を中心に、営業力の強化、金融という目線も入ったネットワークをつくっていかれたらと思う。

【知事】

・岡谷、諏訪にはものづくり産業が集積していてそれぞれが強みを持っていると同時に、個々の企業では小さい営業部門などを協力し合って、総合力を高めていく必要があると思う。例えば営業分野では、行政の信用力を使って、行政と企業の皆さんが商工会とは別の形で連合体となれたらいいと思う。

【参加者】

・若手経営者で構成する21経営者研究会に参加している。勉強会や会社の見学会など参考になることがたくさんあり、有意義な会であると感じている。この街を発展させたい気持ちが強いので、ふるさと納税の返礼品等で貢献できないかと考えたりもする。
・こういったネットワークを今後も活かし、メイド・イン岡谷を増やして、工業品の分野で岡谷ブランドを全国的に発展させていきたい。

【知事】

・21経営者研究会などを発展させて、常に新しい情報を世界から取り入れて共有しながら、自社だけでは難しい部分、特にゼロカーボンや省エネについては県がサポートしていきたい。地域別に必要なサポートが明確にあった方がいいと思う。
・地域全体で社員に対するリカレント教育が実施できるようになれば、産業が強くなっていくという構造を考えたい。諏訪圏域はものづくり系で素地がかなりできているので、足りない部分を皆さんと一緒に考えていきたい。

【参加者】

・岡谷市を代表市として諏訪圏域の市町村から信州大学が委託された諏訪小型ロケットプロジェクトは、地元企業の若手技術者を育成して、この地域を再生することを目的としている。
・信州大学の学生や大学院生も諏訪小型ロケットプロジェクトに参加することで諏訪圏の企業の魅力を認識し、就職への道筋ができたかと考えている。小中学生には、このプロジェクトを通じて、地域の技術力とものづくりの楽しさを伝えていきたい。
・このプロジェクトへの参加をきっかけとして、受注増や新しい企業も含めた複数の企業同士での仕事のやり取りなど地域の中での連携が生まれている。信州大学ではロケットや宇宙をキーワードとして産学官連携を進めて、この地域の発展に貢献していきたい。

【知事】

・ものづくり産業の発展のためには大学の存在は極めて大きいと思う。ものづくり、人づくりの両面からいろいろなプロジェクトを進めていきたいと思う。

【知事】

・エコシステムを発展させるため、「官」の視点でもう少しこうした方がいいのではないか、ここをつなげるべきではないかなど、課題があったら教えてほしい。

【参加者】

・産学官の取組について企業はハードルを高く見ている。もっと気軽に、大学や工業技術総合センターに相談していただきたい。大学も待ち姿勢ではなく積極的に企業に出向いて、困っていることをつなげていきたい。

【知事】

・起業家や大企業の役員なども含めて自由に人がつながれる、企業の人々が常に集まり情報交換などを気軽に行える場をつくるにはどうすればよいか。

【参加者】

・サイエンスカフェみたいに、テーマを決めてコーヒーを飲みながら雑談し、語り合うようなものがあると気軽に集まりやすいと思う。

【知事】

・「気軽に」というのは大事。コーヒーを飲みながら話ができるような、若い技術者、企業経営者が積極的に顔を出す場、縦横斜めのつながりができる場をつくりたい。県の政策としても考えたい。

【参加者】

・ものづくり産業で岡谷市は精密の製造技術が一番。これを活かした営業力のようなトータルビジネス力やネットワークづくりが重要。リーダーシップを取れる企業の創出をどうやっていくかが課題。
・若い人に岡谷市のものづくりを知ってもらいたく、ものづくりフェアを20年間続けている。諏訪圏工業メッセを今年から岡谷市で開催することも全国にPRしていきたい。
・DXは制度や仕組みが大事で、技術だけでは立ち行かない。DXやAI、メタバースについて信州大学からご教示いただきたい。
・M&Aはこの地域ではデリケートな問題でなかなか進まない。これを進めることはものづくり産業を維持・発展させる上で重要。若い人も働き甲斐があって、子育てしやすい地域づくりに取り組んでいきたい。

【知事】

・営業力は県の大きな課題と捉えている。長野県の産業の強みをどう発信するか、どう売り込んでいくか考えていきたい。

【参加者】

・短いスパンで利益を上げながら海外で販路拡大していくことは、1社だけでは難しい。海外販路のネットワーク拡大をテーマとして取り組んでいく方向がいいかなと感じている。

【知事】

・来年度予算に向けて、日本産業の強みとされる自動車産業がEVにシフトしてく中で、サプライチェーンをどこまで取り込めるかということをしっかりやっていきたいと思っている。どういう対応でどういうやり方をするか、経済界の皆さんとも相談しながら考えていきたい。

【参加者】

・諏訪地域の企業は図面さえあれば何でも加工できるが、それだけでは下請けで終わってしまったり、海外に仕事が奪われたりする可能性がある。材料や形状などを提案できる人材を育成していきたい。
・ものづくり企業はリカレント教育、学び直しが必要と思う。ロケット開発や宇宙システムを題材として、諏訪圏企業の技術力の高度化、人材育成、共同研究、さらには特別の課程を通した社会人の学び直しを発展し、諏訪圏企業の振興に貢献していきたい。
・県全体で社会人の学び直しを考えていただき、この地域も含めた信州全域のものづくり企業のリカレント教育について検討していただければ嬉しい。

【知事】

・県も信州大学と連携していろいろなことをやっていきたい。ご協力をお願いします。

【参加者】

・当社は昨今の電気代、ガス代の高騰に危機感を持っている。ものづくりを考えたとき、エネルギー対策は必須である。長野県では水素の開発拠点や水素利用の拠点をつくる考えがあるか。また、長野県の有する技術を活かした独自のエネルギー開発や水力発電と水素も含めて考えを聞きたい。

【知事】

・水素に関しては、山梨大学と長野県産業振興機構が連携協定を結んだ。水素エネルギーは極めて可能性が高く、世界でもその方向に確実にいくと思っている。

・EVシフトなど県内の産業も水素エネルギーにしっかりコミットできるようにしていくことが極めて重要だと思う。できれば岡谷・諏訪など、長野県のものづくり産業の得意分野をどう活かせば水素エネルギーの実用化につながるか研究を進めていただきたい。県でも産業振興機構で取組を始めており、地域企業の皆さんを巻き込みながら進めていきたい。

【参加者】

・地域での子育て環境の整備や女性登用・採用時に企業にインセンティブのある事例などを県が応援する仕組み、またお金だけではない居場所づくりややりがい創出という点で、シルク岡谷の伝統が活かせると感じた。

【知事】

・公約でも女性や若者から選ばれる県づくりを掲げている。次期総合計画の新時代創造プロジェクトの中でも、女性や若者から選ばれる、女性も男性も活躍できる、若い世代が将来の希望を持てる県づくりに取り組んでいきたいので、県民の皆さんにも協力をお願いしたい。